

2026. 2. 28



山口県子ども読書支援センター（山口県立山口図書館）発行

（電話：083-924-2113 FAX：083-932-2817

Eメール：a50401@pref. yamaguchi. lg. jp）

【メールマガジン「本はともだち～山口県子ども読書支援センターニュース」配信中！】

メールマガジン「本はともだち」は、新刊紹介や県内の行事など、より充実した内容で配信中です。読者登録の方法は県立図書館のホームページをご覧ください。

【山口県立山口図書館から】

令和8年1月19日（月）から照明のLED化工事のため臨時閉館しています。

利用者ゾーンの工事終了に伴い、令和8年3月3日（火）より通常どおり開館します。

【山口県子ども読書支援センター行事】

*各イベントの詳細については、当センターのホームページよりご確認ください。 →

★「幼児のためのおはなし会」（毎月第一火曜日）

○日時：3月10日（火）11：00～11：20

○会場：山口県立山口図書館 第2研修室 ○対象：幼児 ○定員：10組程度



【新刊紹介】価格は消費税抜き

<絵本-乳幼児から>

『おととと』 柿木原政広/作 福音館書店 2026.1 ¥900

あかまるつみきのはるちゃんが、のっていたつみきからおこちそうになって、おととと。みどりまるつみきのこーくんが、さんかくつみきのでっぺんからころがって、こつととと。「あつとちよつと」「がつたごつと」など、リズムカルな言葉の連続がイラハラ感を高める、声に出して読みたい写真絵本。月刊絵本『こどものとも0.1.2.』2016年12月号を単行本化。

<絵本-3, 4歳から>

『ゴシゴシどろんこトラック』 ミノオカリョウスケ/作 文溪堂 2026.1 ¥1500

カワウソのゴシゴシのしごとはのりものそうじ。どろんこになったのりものたちも、どろをあらいながしてみがいたら、スッキリさっぱり。おおいにてつだってくれるみんなとちからをあわせて、さいごはおおものをピカピカにしよう。汚れをパワフルに吹き飛ばす爽快な絵本。巻末に、鎌倉女子大学短期大学部専攻科と協働して制作された楽曲「ゴシゴシどろんこのうた」の楽譜あり。

<絵本-5, 6歳から>

『おもいでいろのねこ』 PEIACO/作・絵 Gakken 2025.12 ¥1500

ぼうやがうまれたころからずっとなかよしのミルクは、しろねこのぬいぐるみ。あたらしいしろくまのぬいぐるみがやってきて、じぶんがふるぼけてはいいろにみえることに気づいたミルクは、もとのまっしろにもどりたくて…。汚れに宿る思い出のかけがえのなさを描く絵本。『しろねこのミルク』（『がっけんおはなしえほん にじ』2024年12月号）を一部加筆して単行本化。

<絵本-小学校低学年から>

『ナランはふとっちゃん』 バーサンスレン・ボロルマー/作 津田紀子/訳 工学図書 2025.12 ¥1800

ナランは山のいえでどうぶつたちとくらす女の子。町の女の子たちにふとっちゃんだとわらわられて、みんなとおなじになれどだれもからかったりしないはずだとかんがえる。やせてふくやかみがたもかえ、町の女の子たちともだちになったが、なんだかたのしくなくて…。自分らしく生きることの大切さを描く絵本。2013年ボローニャ国際絵本原画展の入選作品を再構成して書籍化。

<絵本-小学校中学年から>

『山がめざめて』 マット・シャンクス/作 梨木香歩/訳 ひさかたチャイルド 2025.12 ¥2000

あるときせかいがはじまり、ひとつの山があらわれた。山は、さまざまないのちがかなでるうたをききながらねむりについていた。何おくねんもたったある日、うたがきえ、めざめた山は、うたをさがしに旅にでる。石と砂ばかりのせかいをせんねんあるきつづけて、ついに1りんだけさいた花をみつけ…。コマ割りを多用し、長大な時間の流れや命の再生のサイクルを力強く表現した絵本。

<絵本-中学生から>

『ブランコ』 ブリッタ・テッケントラップ/作 梨木香歩/訳 岩波書店 2025.11 ¥3800

海辺の丘でたたずむブランコ。一人で訪れる人、二人やみんなで訪れる人。漕ぐ人、座って遠くを見つめる人、憩う人。喜びや悲しみ、寂しさ、思い出、冒険、夢。花や虫、動物たち…。時間や季節が移ろう中いつもそこにあって、訪れる人びとの営みに寄り添い続けてきたブランコの記憶を、約150頁にわたり淡く美しい絵と詩情豊かな言葉で描き出した絵本。総ルビ。

<読み物ー小学校低学年から>

『学校にひそみきみんもんつき』 とみながまい/作 大串ゆうじ/絵 福音館書店 2026.1 ¥1400

小学生の持ち物につきまとう「きみんもんつき」。妖怪ほど怖くなくて、妖精ほどかわいくない。持ち物を愛するあまり持ち主を困らせて…。けしゴムをポケットにしまう「けしゴムこぞう」、赤白帽子が大好きな「こうはくおろち」、知らない間に潜り込む「ランドセルヤドカリ」など、少し不思議な8種類のきみんもんつきがユーモアいっぱい描かれる。

<読み物ー小学校中学年から>

『呪われたケータイ』 あみ・牛抱せん夏・黒木あるじ・黒史郎・つくね乱蔵/作 金の星社 2025.12 ¥1500

隣町の廃病院から帰ってきた夜に届いた知らない番号からのショートメール。撮った覚えのない写真が映るキッズ用ケータイの画面。突然途絶えた友達との通話…。怪談師、怪談作家など5人の著者による、電話にまつわる怖くて不思議な話18編を収録。作者のひとり、あみ氏は、山口県出身で怪談師・司会MC・ラジオパーソナリティ等としても活動する。

<読み物ー小学校高学年から>

『春の雨にぬれて、獅子はおどる』 岳明秀/作 いとうあつき/絵 講談社 2025.11 ¥1500

東京から雪深い岐阜の千鳥川に突然引越することになった5年生のナオコ。打ち込んでいたサッカーをやめることになり落ち込んでいた。新しい環境に戸惑いつつも友達ができ、地域の伝統芸能の獅子舞に興味を持つが…。地域の根深い確執に怯みながらも必死で食らいつき、自分らしさを貫く少女の青春物語。第27回ちゅうでん児童文学賞大賞作品。

<読み物ー中学生から>

『SSR チルドレン』 百舌涼一/著 講談社 2025.11 ¥1650

両親に複雑な感情を抱く中学1年の女の子汐（しお）と、その幼馴染で代々町の中心的存在である一家「富岡家」の佑大。2人は山口県の離島から引っ越してきた転校生の美玖と友達になり、祖父母の住む離島へ夏休みに帰省するという美玖に同行するが…。家や家族のことで悩む少年少女が、友情を育みながら次第に互いの事情や思いを知り成長していく物語。著者は山口県出身。

<ノンフィクションー小学校低学年から>

『絵本ってどうやってつくるの?』 ダニエル・ナップ/作 若松宣子/訳 ほるぷ出版 2025.11 ¥1800

子どもの本の作家のキツネ、ペトラが、イラストレーターのアナグマのユリウスと一緒に絵本を作ることに。ペトラが進行役となり、物語の着想から、出版社との企画立案、執筆、印刷、製本、発送、販売など、絵本ができるまでの過程が丁寧にわかりやすく物語として紹介。出版の専門用語は平易な言葉と絵で解説。本づくりの工程を学べる1冊。

<ノンフィクションー小学校中学年から>

『ヘレン・ケラーとかわした手紙』 横田明子/作 文研出版 2025.12 ¥1600

風邪がもとで19歳で失明した武夫は、点字と出会い学問を志す。英国留学をきっかけに日本の障害者福祉の遅れに気付いた武夫は、1935年「日本ライトハウス」を設立、視覚障害者の自立支援等の福祉事業に取り組む。また三重苦を克服したヘレン・ケラーに來日を依頼し、生涯にわたり親交を深める。日本ライトハウスの創業者、岩橋武夫の生涯を描く。

<ノンフィクションー小学校高学年から>

『おやつのおぼうさん』 井出留美/著 坂内拓/絵 くもん出版 2025.12 ¥1500

祖父が住職を務める奈良の寺で育った松島少年は「おぼうさん」になることに納得がいかず、引きこもったり高校を中退したり…。様々な人に出会い企業に勤めるも、自分にしかない生き方として住職を継承することに。やがて、子どもの貧困と食品問題と向き合い、NPO法人おてらおやつクラブを設立する。全国にも広がる安養寺住職松島さんの活動を紹介。

<ノンフィクションー中学生から>

『山へ行った画家が丸太の弁当をつくって林業の応援活動をはじめた話』 牧野伊三夫/絵と文 あかね書房 2025.11 ¥1600

画家である著者は、「山できこりを描きたい」と林業がさかんな大分県日田市を訪ねる。そこで思いがけず集まった仲間と林業の応援団「ヤブグリ」を結成し、丸太のイカダで川を下ったり、ゴボウを丸太に見立てた「きこりめし弁当」を作ったりとユニークな活動を展開。好奇心をきっかけに多様な人が繋がり、新たなアイデアや仕事が生まれていく様子を描くノンフィクション。

<研究書>

『子どもと本をつなぐ 子ども文庫と私立図書館』 汐崎順子/著 玉川大学出版部 2025.10 ¥2800

戦後全国に広がった子ども文庫、石井桃子・土屋慈子・松岡享子の家庭文庫が合体して設立した「東京子ども図書館」の理念と活動、東日本大震災後の岩手県陸前高田市で生まれた文庫等。アンケートやインタビュー調査を踏まえ、「子どもに楽しい読書の経験をさせたい」と、子どもの読書環境を支える私設の子ども文庫や私立図書館の役割や可能性について考察した1冊。索引あり。

『科学的根拠(エビデンス)が教える子どもの「すごい読書」』 猪原敬介/著 日経BP 2026.1 ¥1800

読書に価値はあるのか? 読書で頭はよくなるのか? 効果的な読書の実践とは? 読書に関する様々な迷いについて多くの資料を科学的根拠とし、読書の効果を解説する。生活の中のより実践的な「読書」の方法を取り上げ、子どもの読書環境を充実させる手立ても数多く紹介する。子どもの「一生ものの本」との出会いを応援する1冊。著者は教育心理学と認知科学を専門とする研究者。

※【新刊紹介】の本は、県立図書館で現在受入準備中の本です。そのため、県立図書館の蔵書検索(OPAC)では検索できませんが、利用することは可能です。収書のための選書の参考として、閲覧、貸出等を希望される方は、お問い合わせください。

山口県立山口図書館では、電子図書館サービスを提供しています。利用案内はこちらから→
<https://library.pref.yamaguchi.lg.jp/dlibrary/>

